

総合学習につなげる詩の授業

——【まど・みちおの世界】——

「よかったなあ」の授業

授業者 西郷竹彦

生徒 岡山県の小四・六・中一・二・三年生

二〇〇〇年六月一八日 邑久町中央公民館

二〇〇〇年八月

文芸研 編集

総合学習につながる詩の授業

――【まど・みちおの世界】――

「よかったなあ」の授業

授業者 西郷竹彦

生徒 岡山県の小四・六・中一・二・三年生

二〇〇〇年六月一八日 邑久町中央公民館

授業のめあて

T 今日も詩の勉強ですが、みなさんがいつも学校で受けている詩の授業とちがって、「詩を」勉強するというよりも、「詩で」ものの見方・考え方の勉強をする。詩を使って、どのようなものの見方・考え方をするか、ということですよ。

これまで「くらべる」とか「つなげる」とか「わかる・まとめる」とかやりましたね。

今日もこの（前時に使った模造紙の表）中から、またいくつか出てくると思います。

ものの見方・考え方

・くらべる

類比 \parallel おなじところ、にたところ

くりかえし（反復）

対比 \parallel ちがうところ、反対のところ

・つなげる

うつり、うごき、かわる（何が、どう）

（順序、過程、変化、発展）

・わかる、まとめる

（類別、分類）

・わけ

（原因、理由）

・条件（仮定―もしくならば）

時、所、人、物、場合による

原因―条件―結果

（因）―（縁）―（果）

今回は三回目ですから、もう一つ「ひびきあわせる」ということをやります。（始業前

にしてある板書をさす)

(板書)

もの見方・考え方

ひびきあい

もちつもたれつ

つれあってかわる

あみの目のようにつながりあって

自然の中でも、世の中でも、ものがひびきあってあるということがたくさんあります。〈ひびきあい〉です。

それから、へもちつもたれつ〉の関係にある。これもたくさんあります。助け合う関係にあるというふうなことです。

それから、こっちが変われば、向こうも変わるし、向こうが変わればこちらも変わる、つまり〈つれあって変わる〉といえます。こういうもの見方・考え方があります。

それから、すべてのものは〈あみの目のようにつながっている〉。全部つながっているということです。みなさんも私も、このあみの目の一つです。このあみの目のどこか一つが変わると、全部つれあって変わっていくという、このへんのところを中心に、今日は勉強していきます。

「よかったなあ」

今日は、この「よかったなあ」という詩をやります。

よかったなあ

まど・みちお

よかったなあ 草や木が

ぼくらの まわりに いてくれて

目のさめる みどりの葉っぱ

美しいものの代表 花

かぐわしい実

よかったなあ 草や木が

何おく何ちよう

もっと数かぎりなく いてくれて

どの ひとつひとつも

みんな めいめいに違っていてくれて

よかったなあ 草や木が

どんなところにも いてくれて

鳥や けものや 虫や 人

何が訪ねるのをでも

そこに動かないで 待っていてくれて

ああ よかったなあ 草や木がいつも

雨に洗われ

風にみがかれ

太陽にかがやいて きらきらと

なぜ へよかったなあ なのか

「 ちょっと読みます。へよかったなあ 草や木が／ぼくらの まわりに いてくれて。なぜ 草や木が／ぼくらの まわりに いてくれ」とへよかったなあ」ということになるのだろうか？ということをお頭にためておいてください。へよかったなあ 草や木が／ぼくらのまわりに いてくれて、どうしてかなあ？」と。

そのわけを考えるのにちょうどいいように作者が書いてくれていますよ。〈目のさめるみどりの葉っぱ〉。これがあるから、草や木がぼくらのまわりにあると、いいな。それから〈美しいものの代表〉、いろんな美しいものがありますけれども〈花〉といえはその代表みたいなものですね。〈美しいものの代表 花〉。草や木といえば花ですよ。これがあるからへよかったなあ」と言っている。それから〈かぐわしい実〉。かぐわしいというの香りがいいということ。したがって、おいしい。もちろん栄養になる〈かぐわしい実〉が、ぼくらのまわりにいてくれてへよかったなあ」と言っているわけです。

二連にいきます。へよかったなあ 草や木が／何おく 何ちよう」というと、とても数えきれないぐらいですね。へもっと数かぎりなく いてくれて、今ここから、みんなの方からは見えないけど、先生の方から見ると、回りに道やら畑やら山やら、小さい丘やらたくさんありますが、たくさん、さまざまな種類の木や草が見えます。見えている範囲で、たくさんですけど、もちろん見えていない範囲にもいっぱいあるわけですね。〈数か

ざりなく、たくさんあります。

たくさんあるんだけど、大事なことは、〈どの ひとつひとつも／みんな めいめいに違っていてくれ〉る。それぞれに違っている。桜の木、松の木、柳の木と、ちがいますね。で、同じ松の木でも、一本一本ちがいます。

みんな、まわりの友達の顔をちょっと見てごらん。同じ顔の人いますか。いませんね。みんな違います。兄弟でも違いますね。

みんなめいめいに違っている。違っていることが、なんで、〈よかったなあ〉ということになるのかなあ？これもまた考えてみましょう。

読むときに、ただ読まないで、なんでかなあ、と考えながら読んでいきます。そうか、たくさんあるというのはい「いい」と言っているなあ。ひとつひとつ違うということが「いい」とも言っているなあ、どうしてかなあ、と。

さて、三連です。〈よかったなあ 草や木が／どんなどころにも いてくれて〉。〈どんなどころにも〉というのは、山にも川っぷちにも野原にも……いや、日本にもお隣の朝鮮や韓国や中国にも、あるいは暖かい所にも、寒い所にも〈どんなどころにも いてくれて〉。

しかもですね、〈鳥や けものや 虫や 人〉、ここに生き物、動物はぜんぶ入っていますね。魚がいないですけどね。それはしょうがないです、草や木だから。ま、海の中にも海藻が生えていますけど、とりあえずは、ここは土の上の世界です。ですけど、ま、考え方によっては、魚も入っているかもしれませんよ。

〈何が訪ねるのをでも〉、何が訪ねてきても、じっとそこに、草や木が〈動かないで待っていてくれて〉、〈鳥や けものや 虫や 人〉が来るのを待っていてくれて、四連の〈ああ よかったなあ〉。ただ〈よかったなあ〉じゃなくて〈ああ よかったなあ〉と言っています。

〈草や木がいつも〉、〈いつも〉というのは、春夏秋冬、昼でも夜でも、いつでもです。草や木が〈雨に洗われ〉、雨が降ってきて、草や木が雨に洗われている。それから〈風にみがかれ〉る。風にふかれて葉がそよんでいますね。

〈太陽にかがやいて〉、葉っぱが太陽の光でキラキラと輝いていますね。それを、草や木がいつも太陽の恵みを受けているから、よかったなあと言っているわけです。

類比

T それでは、前にも勉強しましたが、文章を読んだときに一番目につく、わかりやすいことは何かというと、同じようなことばがくりかえされているところ。そこに目をつける。ものを見るときに、どこが同じかなあ、どこが違うかなあという見方をする。

これが一番のイロハです。

まず類比でしたね。くらべて見る。一連、二連、三連、四連の四つをくらべて、同じところ、似たところ、くりかえしがないか考えてください。すぐわかりますよ、何回も出てくるから。そこは一番だいたいなところなんです。もう、見ればわかる。先生が読んだから、もうみんな気がついていると思うな。わざわざ考えるほどの問題じゃない。

どこですか。同じところ、似たところ、つまり、くりかえしです。

では、手を上げてください、今日の授業のトップに。なんか、元気ないね。お昼ごはんは食べた？では、その赤いシャツの人。あ、俊介君か、お母さんが見てる。(笑)

俊介 へよかったなあ。

T うん、ただへよかったなあじゃないだろ？

俊介 はい。(草や木が)。

T そうね。中途半端にしないで最後まで言ってね。へよかったなあ 草や木が)。一連と二連と三連と、四連もですよ。(模造紙に書いた詩に赤で傍線をひく)四連はへああ)がついているから、ちょっとちがうけど、やっぱりへよかったなあ 草や木が)は同じです。四つの連ともぜんぶ初めの一行がへよかったなあ 草や木が)になっています。くりかえされています。

この、くりかえしというのは、書く人の側から言うと、一番だいたいなところですよ。先生やお母さんが、みんなにくり返し言うことがあるでしょう。何と言っていますか、お母さんは。(笑)あなたのお母さんがあなたにいつもくり返し言っているのはどんなこと？

千尋 くつをそろえなさい。

T あ、そうか、くつの脱ぎ方が乱雑なんだ。

そのお隣の人は？

未沙 勉強しなさい。(笑)

T あなたは勉強しないんだな、さては。

なるほど。要するに、お母さんがいつもみんなに言うことは、そこを一番なんとかしてもらいたいということなのです。

くりかえしは、強調です。強める。自分の言いたい気持ちを相手に強く訴えるときに、くりかえしを使います。

まど・みちおさんは、草や木があることがよかったなあ、と強調しています。

では、なぜ、草や木があることがよかったのでしょうか。草や木があることの何がいいと言っているのでしょうか。

まず一連ではへぼくらの まわりに いてくれて)ということがへよかったなあ)。そうですね。

二連からは、みんなに言ってもらおう。希くん、どういうこと？

希 〈何おく 何ちょう〉。

T うん。〈何おく 何ちょう〉もいるということが、〈数かぎりなく〉いることが〈よかったなあ〉と。それだけ？

希 〈みんな めいめいに違っていい〉。

T うん。〈みんな めいめいに違っていい〉ということもです。二つありますね。忘れないうちに線をひいておこうね。(詩に赤で傍線をひく)

まず、一連の〈まわりに いてくれて〉。次に二連の〈数かぎりなく いてくれて〉。それから〈みんな めいめいに違っていてくれて〉。

それでは、三連では何がよかったと言っているの？

倫子 〈どんなところにも いてくれて〉。

T うん、〈どんなところにも いてくれて〉。(詩に傍線)

そうですね。そして、ただ、いるというだけでなく〈待っていてくれて〉ですね。

〈うしてくれて〉〈うしてくれて〉とくり返されています。〈うしてくれて〉いるというのは、むこうがこちらに、いろんなことをしてくれているということ。役に立つことを、ありがたいことをしてくれているということですよ。

さて四連は何ですかね。これは年上の人に聞いてみるかな。その「考える人」のポーズの人。(笑) ロダンの彫刻みたいだ。はい、どうぞ。

優 〈雨に洗われ〉。

T 何が雨に洗われているの？

優 草や木。

T うん、草や木が。

優 〈風にみがかれ〉。

T うん。

優 〈太陽にかがやいて きらきら〉。

T うん。それは、ある日だけ？ある時だけ？たとえば、春とか夏とか、ある時期だけ？

優 いや、〈いつも〉。

T うん、うん、〈いつも〉こういうことをしてくれている。〈洗われ〉 〈みがかれ〉、太陽に照らされて〈きらきらと〉。そうですね。

さあ、そうすると、いいですか。〈よかったなあ〉(赤で板書)ということがよかったかというと、〈ぼくらの まわりに〉。(板書)今、赤で書いていることも、ある意味では、くりかえしですよ。要するに〈よかったなあ〉ということの、何がよかったのかと

いうと、こういうこと、こういうことで、というふうにくり返しているわけです。こういうのもくりかえしの内に入るのですよ。へよかったなあ」ということ、それがどういふうによかったのかということす。

ゆたかな

T それから〈数かぎりなく〉いてくれて。しかも〈めいめいにちがって〉いてくれる。

〈数かぎりなく〉というのは、数が多くあるということすね。たとえば何本も何本もという数。数がたくさんということす。たとえば一つの山に木が生えていますね。百本生えているよりは五百本生えている方がたくさんということになりますね。

そこで、ちょっと考えてみてね。一つの山に杉の木を人が植えて、杉の木ばかりの山があります。杉の木が五百本生えている山があります。人が作ったから「人工林」(板書)といいます。山を見ると、そろった、一つの種類の木がたくさん生えているところがありますね。人が植林した人工林です。

ところが、そうじゃなくて、見ると、いろんな種類の、何十種類もの、さまざまな種類の木が生えている山があります。これは自然の山だから「自然林」(板書)といいます。自然の林です。これはもう、見ればすぐわかりますよ。

人工林と自然林と二種類あります。どっちも、木の数で言うと五百本だとします。けど、木の種類は、というと、人工林は杉だけ、自然林はナラやクヌギやいろんな種類があって、あわせて五百本。

みんなは「ゆたかな」(板書)自然ということばを聞いたことがあるでしょう。自然がゆたかだと。いったい、どちらがゆたかな自然ということになるのでしょうか。ちょっと話し合ってみてください。人工林は一種類、自然林はいろんな種類がある。

(間)

T これは人間の集団、たとえば学級でもいいですよ。その学級に歌のうまい子もあれば、おどりのうまい子もいる。算数がとくいな子、虫のことがとくいな子……いろいろな子どもがさまざまにいるという学級と、そうじゃない学級、同じような子どもばかりいる学級、似たような子ばかりの集団と、どちらが楽しいかな。どちらの集団に入りたいと思う？あなたたちが入るとすれば。

C いろいろな。

T いろいろちがう人がいる集団。どうして？

C 楽しい。

T どうして、楽しい？

C ……

T たとえば、あなたが、あまり虫のことを知らないというときに、虫のことをよく知っている友だちがいたら、どう？

C 聞く。

T そうでしょうね。

人の集まりでも、同じような人の集まりは、ま、それはそれでいいところもあるけど、それよりは、いろんな人がいたら楽しい。なぜ楽しいかというと、自分が歌を知りたい、聞きたいと思ったら、歌の得意な友だちがいたら、その子に歌ってもらったら、「あ、そういう歌か、おもしろいな」と思うでしょうね。絵の好きな子がいると、絵を見せてもらおうとかね。あるいは展覧会に行ったら、絵の好きな子が「この絵はこういう絵だよ」と教えてくれたりしたら楽しいでしょうね。

自然でも、人間の世界でも、いろいろに違った種類の木がある、いろいろな人がいるというようなのを「ゆたかな」と言います。ただ数がたくさんあるということや「ゆたかな」と言うのではありません。へめいめいに違っていてくれてこそです。一つ一つめいめに違っていて、しかもたくさんあるとなると、これはもう最高にゆたかなすばらしい世界です。

木や草でも、ただ数が多いというのではなくて、いろいろな木がある。一つ一つちがう。めいめい違う。そういうものが、数かぎりなくあるから最高にすばらしい、へよかったなあ」ということです。

人間にとつて

T へよかったなあ」というのは、人間が言っているのですよ。まず、人間にとって、いい。草や木がいろいろある方が人間には幸せなのです。昔の人は、病気などをすると、今とちがって、たとえばお腹が痛いというと、「あの草の葉っぱをとってきて食べると薬になる」とか、ケガをして化膿したら「あの木の汁をつけると治る」とかいろんな知識があって、種類のちがう草や木をいろいろに役立てました。

さまざまな種類のものがあるということ、それがへよかったなあ」ということになるわけです。

それから三番目は、これはもうすぐわかることですね。へどんなところにもいてくれる。草や木がへどんなところにもいてくれる。どこへ行っても草や木がある。草や木が何もない所だったら、さびしいねえ。ところが幸いにどんな所へ行っても草や木がちゃんとへ待っていてくれる。

書きますよ。へどんなところにもいてくれる。(板書)

それから、さっき「ゆたかな」ということをやりましたね。

そして〈いつも〉〈板書〉ちゃんと、いつも。

いま黒板にならべて書いたことを〈よかったなあ〉と言っているわけですね。

いつもいつも草や木がちゃんと〈雨に洗われ〉る。雨に洗われるというのは、雨が降ってくるということ。もし雨が降らなかったらどうでしょうね、半年も一年もずうっと。

佳也 かれる。

もちつもたれつ

T そうだね。

〈風にみがかれ〉の〈風〉は空気です。空気がなかったら？

佳也 かれる。

T なんて、かれるの？

佳也 空気がなかったら、二酸化炭素がない。

T ほう、よく知っているなあ。草や木は空気の中の二酸化炭素を吸うんですね。五年、六年になると習いますね。〈風〉ということは空気のことだからね。

〈雨〉というのは何？水だな。草や木は生きているから、人間も生きているけど、生き物は水がないと死んでしまいます。

雨が降るということは水があるということ。風があるということは、佳也君が言ったように、草や木にとっては二酸化炭素があるということ。草や木は空気の中の二酸化炭素を吸って生きているわけですね。人間や動物は、空気の何を吸って生きているの？

佳也 酸素。

T 酸素だね。そして、何を吐き出すんだっかな？

佳也 二酸化炭素。

T 二酸化炭素。その二酸化炭素を誰が欲しがるの？

佳也 木とか草とか。

T うん。それから、木や草は二酸化炭素を吸って何を吐き出すかな。

佳也 酸素。

T おお、優等生だな、こりゃ。すごい。もう一度、大きい声で、立って、草や木と動物の関係を言ってごらん。

佳也 人間や動物は酸素を吸って二酸化炭素を出して、その二酸化炭素を草や木が吸って、酸素を出す。

T うん。そういうふうに考えることを、そういうふうな見方・考え方を何と言うか知ってる？

C ……

T 人間や動物は酸素を吸って、二酸化炭素を出す。草や木は、その二酸化炭素を吸って、酸素を出す。その酸素を人間や動物は吸う。こういう関係です。お互いに助け合っている関係でしょう。〈もちつもたれつ〉と言います。

ここ（始業前の板書）を見てください。〈ひびきあい〉ということをお互いに勉強するのでしたね。これが〈ひびきあい〉ということ。〈もちつもたれつ〉というのもそういうことです。そういうふうを考えます。

さあ、そこで、黒板の詩を見てください。葉っぱ、花、実。それから鳥、けもの、虫、人。四連では何かな。

先生はいま、詩の中のことをマルで囲みましたよ。マルで囲んだのは、一連では〈葉っぱ〉〈花〉〈実〉。三連では〈鳥〉〈けもの〉〈虫〉〈人〉。

では、四連では何かな？

佳也 〈雨〉〈風〉〈太陽〉。

T おお、君はもう、この詩の専門になっちゃった。（笑）〈雨〉〈風〉〈太陽〉。（詩にマル）

では、今マルで囲んだものを黒板に書いてみますよ。（板書しながら）まずは〈葉っぱ〉。それから〈花〉。それから〈実〉。これは結局は草木のことですよ。

それから〈雨〉と、それから何だっけな。

C 〈風〉。

T 〈風〉ですね。

この詩の世界が、どういうものでできているか。この詩の世界がどういうもので組み立てられているか。

そこで、今まで書いたのは、葉、花、実。つまり草木ですね。

それから雨、風、そして？なんだか君に聞きたくなっちゃった。（笑）専門にやってちょうだい。

佳也 太陽。

T 太陽。（板書）

ところで、これ〈雨〉は何だったかな。

佳也 水。

T うん、水。（板書）

これ〈風〉は何だったかな？その隣の人に聞いてみよう。

直 空気。

T うん、そうだ。（板書）もう、その班が専門になっちゃったな。

では、ここ（太陽）は何だろう。

直光。

T うん、日光だな。日の光ね。（板書）

さあ、ところで三連に出て来たのは何でしたかね。こんどは、その班の青い服の人。

純子 鳥。

T 鳥ね。（板書）それから？

純子 人。

T 人、そうですね。（板書）このようなものが出てきました。

（板書）

雨（水）

葉

鳥

風（空気）

花

けもの

太陽（日光）

実

虫

草木

人

書いてないけどわかる

T そこで、いいですか。これから考えることは、ここには、この詩には、書いてないけれども、ある見方・考え方をすると、いろんなことがわかる、ということですよ。書いてないけどわかる、という問題です。

〈ひびきあい〉〈もちつもたれつ〉〈つれあってかわる〉〈あみの目のようにつながりあって〉という考え方は、一つ一つちがうけれども、みんなまとめてもいいんですよ。ちょっと、それをやってみます。どういうふうに考えればいいのかということですよ。

さっき、ちょっと出ていたけれども、空気と人間と草木の関係で佳也君が言っていましたね。空気と草木の葉っぱと人間はどんな関係だったかな？もう一度言ってみて。

佳也 もう一回？

T うん、もう一回。ボーッとしている人もいるから。

佳也 二酸化炭素を葉っぱが吸って、酸素を出して、酸素を人が吸って、人が二酸化炭素を出して、その二酸化炭素を葉っぱが吸う。

T うん、そういう関係がありましたね。

今、一つだけやりましたが、実は、この〈空気〉は〈花〉とも関係がある。(板書……赤線でつなぐ)それから〈実〉とも関係がある。(赤線でつなぐ)いや、それだけじゃない。(水)も〈空気〉と関係がある。(赤線でつなぐ)全部、〈空気〉と関係がある。全部です。時間がないから、全部はやりませんけどね、線で結びますよ。

水は、葉っぱとも実とも関係がある。だって、水がなかったら、花がさくかな？

佳也 さかない。

T 今日は、その班だけに言わせるよ、なんて言ってパッとこちらの班に当てるからね。(笑)

水がなかったら、実がなる？

希 ならない。

T うん、ならない。どう？つながりがあるでしょう。それから空気がなくて、つまり二酸化炭素がなくて、花がさく？

希 さかない。

T 実がなる？空気がなくても。

希 ならない。

T ならないね。こういうふう已全部つながっているね。

じゃあ、お日様の日光。この世界からお日様というものがなくなったら、そんなことはないけれども、仮に日光が当たらないとしたら、葉っぱや花や実が、なると思う？

希 ならない。

T うん。君は何年生？

希 中二。

T なんで、お日様の光がなかったら、葉や花や実が育たないの？

希 栄養ができない。

T うん。これは理科の勉強だよ。だから、詩を勉強するというのではなくて、詩で、いろんなもの見方を勉強しているわけです。

小さい子たちには、ちょっとわかりにくいかも知れないが、でも、考えてみてね。たとえば、畑に作るトマトでもキュウリでも何でもいいが、要するに草ですよ。それにお日様の光を当てたばあいと、当てないばあいと、どちらがよく育つと思う？

圭絵 当たっている方。

T そうね、当たっている方。

それはなぜかというと、下の学年の子は、習ってないかも知れないから、今ここで教えてあげるね。緑の葉っぱがあるでしょう。あの緑の葉っぱというのは、根から吸い上げた

水と、空気中の二酸化炭素と、この二つをお日様の光の力で栄養に変えるのです。栄養というのは知っているね。栄養に変えて、それで葉っぱがふえていく。枝が出る。根をうんとはる。大きくなる。花がさく。実がなる。これはぜんぶ栄養のおかげです。

みんなも朝昼晩、食べたり飲んだりするでしょう。そしてだんだん大きくなっていくわけね。それと同じで、草や木はお日様の日光がないと、葉っぱで栄養を作ることができないのです。

いや、お日様があっただけではダメです。水がないとダメ。空気がないとダメ。

そうすると、今、この関係はわかりましたね。草や木は雨や風や太陽がないとぜんぶ死んでしまいます。生きておれない。

さて、こんどは逆の関係です。雨はどこから降るの？

C 空。

T 空の何から？

C 雲。

T 雲。雲はどうやってできるか知ってる？

直 水蒸気が上がって。

T その水蒸気はどこから出てくる？

直 海や川。

T 海と川だけ？

直 雨がふって。それが蒸発する。

T うん、それともう一つあるね。それから？

直 湖。

T うん、もうそれはいい。(笑)もう、川とか海とか湖とかはね。

うーん、これは、ちょっと知らないかなあ、五、六年生、中学生は。

草や木が生えているね。草や木は水を求めて、降ってくる雨を吸い上げて生きているわけね。ところが実は、葉っぱから水蒸気が出ているのです。たとえば夏なんか暑いでしょう。暑いときに森や林に入ると、どう？

C 涼しい。

T 涼しいよね。なぜ涼しいか、わかる？

直 日かげになっているから。

T 日かげになっているからじゃないよ。

浩嗣 風が通るから。

T あ、風。(笑)うん、風も通るね。風が通るんだけど、なんで、林の中を風が通るのかということ考えたことない？

浩嗣 すきまがある。

T (笑) うん、もちろん、そうだけど、すきまがあっても、風が通らんことはあるよ。

なぜ、森や林の中のすきまを風が通っていくかというとな、外から風がふいて来なくても、ちゃんと風が流れる。

それはなぜかというとな、葉っぱから水蒸気がどんどん出る。夏、暑いと、木の葉っぱもどんどん暑くなってくる。暑くなると人間は、どうなる？

C 汗をかく。

T そう、汗をかく。なぜ汗をかく？汗をかくと、どうなるの？

龍弥 冷える。

T 冷えるね。体をさますわけね、汗は水だから。体から水が出るでしょう。その水は体の熱をうばって水蒸気になって出て行っちゃう。それと同じことが森や林の中でも起こる。どんどん暑くなってくると草や木の体温が上がってくる。体温が上がると草や木も生きていけない。だから、葉っぱからどんどん水を外へ出す。その水が水蒸気とならずうっと上へ上がって行って雲になる。その雲から降ってきた雨でまた草や木が育つ。うまくできていると思わない？これ。

これもやはり、お日様が照らしてくれているから、そういうことが起きるわけです。ですから、ぜんぶつながっていて、しかも一方的じゃなくて、葉っぱがあるから雨ができる。草や木がたくさんあるから、水がうんと出て、雲になり、それが雨になる。降って来た雨を、つまり水をまた草や木は吸って生きている。

天地人

T それでは、草や木の花とか実と、鳥との関係。ここも、こういうふうになっているんだよ。(板書……赤線でつなぐ)

ぜんぶ、つながっちゃったよ。

鳥と花の関係を見てごらん。どう？花を食う鳥もいる。実を食う鳥もいる。実は鳥に食われて、運ばれて、フンと一緒に遠く離れた土地に種を落としてもらう。

虫は、どう？葉っぱを食って生きている虫がいるよね。

花を食べるサルみたいなものもいるでしょう。もちろん実も食べるね。

葉とか花とか実というものは、鳥やけものや虫にとっては栄養になる。葉にもなる。

さて、この葉っぱが落ちる。花も落ちる。実が落ち、落ちてくさる。くさると何になるんだったかな？

龍弥 土。

↑ 土だね。ちょっと黒板を見てごらん。こういうふうを考えていくんだよ。この詩で、どこかひびきあっているものはないかな、もちつもたれつという関係はないかな、というふうに。そういうふうを考えていくと、いろいろ見えてくるわけです。

そして、これはもう、みんなが理科で勉強したことだと思っただけでも、このあいだの「落ち葉」の詩でも勉強しましたね。落ち葉、もちろん花も実ですが、落ちてくさったからおしまいというのではなくて、くさるとそれが土になるわけね。

むかし、土というものはなかったのです。ただ岩だけだった。切り立った岩です。土がどうしてできたかというと、虫とか鳥やけものとかの動物、あるいは草や木などが死ぬとくさる。そのくさったものが土になるのです。その土からまた草や木は育つ。根っこから栄養をとって大きくなるでしょう。大きくなった草や木が花を咲かせる。実を実らせる。それを虫や鳥やけものはいただいて生きていく。

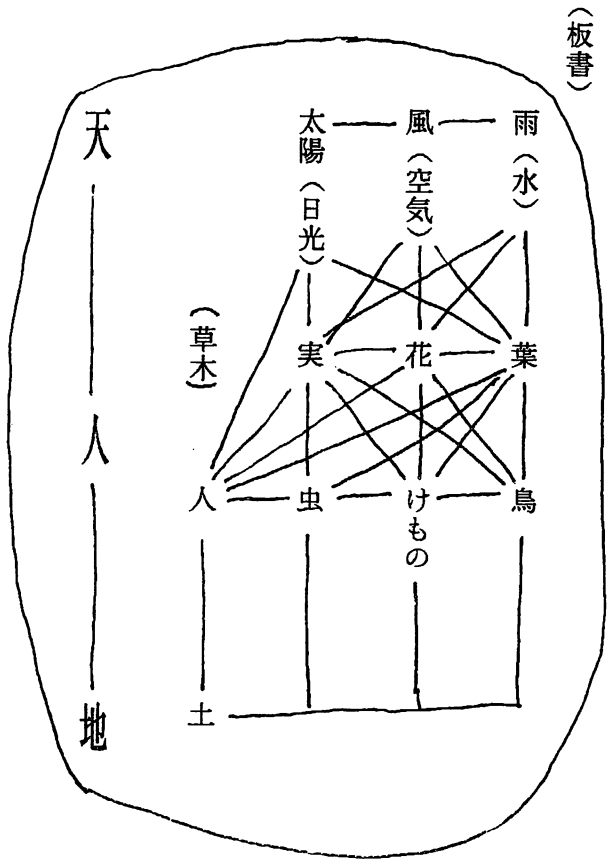
わかりますか。これが世界というものだよ。(板書……全体を赤で囲む)

それで、ここが天でしょう。(板書)ここは地でしょう。(板書)ここには人がいるでしょう。(板書)

昔の人は「天地人」と言いました。

あみの目のように

↑ これを見たらへあみの目のようにつながりあっている、ということがわかるでしょう。この世界には関係のないものはない。ぜんぶ、つながっている。



T 今、みんなと先生の間にもつながりがあります。どんなつながりがある？

C ……

T 今、何をやっているの？

浩嗣 詩の授業。

T 授業は何のためにやるの？何を勉強しているの？

C ……

T どういうことを勉強しようとしているの？

C みんながつながっている。

T ぜんぶつながっているということ。つながっているということは今勉強したね。それは誰に教わったの？

浩嗣 西郷先生。

T うん、西郷先生にね。ちょうど水を草木にかけるように。(笑)それを吸っているわけだよ、みんなは。今、少しかしくなった。人間はただ体で育つわけじゃない。頭も心も育たなくてはいけない。勉強というのは頭と心を育てるわけですよ。

先生もまた、みんなと一緒に授業する中で、みんなからいろいろなことを聞いて「そうか、なるほど」と勉強しているわけなのです。

結局、この詩は、すべてのものはひびきあっている。もちつもたれつである。だから一方が変われば、一方も変わる。こちらが変われば、むこうも変わる。あみの目のようにつながりあっているのだ。これが世界の姿だ。こういうことを考えてわからせる詩なのです。

ということは、詩をわかったということにもなるね。この詩は、こういう詩だと。

詩をわかったということにもなるが、もっと大事なことは、ものの方・考え方を勉強したことです。つながりがある。もちつもたれつの関係にある。そういうことをこの詩で考えてわかった。そして世界というものはこういうふうにあみの目のようにつながりあっているということがわかった。この詩で、そういうことを考えてわかったということになります。

ねうち

T ところで、もう一つ、一連に〈目のさめる みどりの葉っぱ〉とありましたね。

(板書……詩に赤で傍線をひく)それから〈美しいものの代表〉。(詩に傍線)〈美しいものの代表〉というのは何？

C 花。

T 花。

それから〈かぐわしい実〉。(詩に傍線)〈かぐわしい〉というのは、どういうこと?

C 香りがいい。

T 香りがいいということですね。したがって、おいしそうということですね。

こんどは、新しいことを一つやりますよ。〈ぼくらのまわりに〉、つまり人間の〈ぼくら〉ですね。ただ〈葉っぱ〉と言っているのではなくて〈目のさめるみどりの葉っぱ〉と言っています。あざやかな緑の葉っぱがいっぱいある。それが、すごくいい。

それから美しい花がいっぱいある。それも、すばらしい。よかったなあ。

それから、香りのいい、おいしい実がいっぱいある。これも、ぼくらにとって、人間にとって、よかったなあ。

こういうことを、こういうふうに言います。よくおぼえておいてくださいよ。〈ねうち

〉と言います。(板書)

(板書)

目のさめる みどりの葉っぱ

美しいものの代表 花

ねうち

かぐわしい実

(価値)

T 〈ねうち〉ということばは知っていると思います。むつかしいことばで〈価値〉と言います。

これは大事なことだから、少しくわしくお話ししますが、詩ではちゃんと〈ぼくら〉というふうに言っていますね。たとえば美しい花の、その美しさというのは犬や猫にとってもはどうでしょう 犬や猫は「花が美しいなあ」と見とれていることがある?

C ……

T 花を見て美しいと思うのは誰?

龍弥 人間。

T そうですね。人間なんです。だから、花を美しいと思って、〈美しいものの代表〉と思って、「ああ、いいなあ、美しい花がさいてよかったなあ」と思っているのは人間なんです。だから、これは人間にとっての〈ねうち〉〈価値〉なんです。もちろん〈みどりの葉っぱ〉があることも人間にとってねうちがあります。なぜ、みどりの葉っぱが人間にとってねうちがあって、どういうふうに関に立つの? 博士。(笑)

佳也 はあ? 酸素。

T 照れないで堂々と言いなさい。

佳也 酸素を吸って生きていく。

T うん。もちろん人間だけじゃないですが、今ここではまず人間です。〈ぼくら〉の〈ら〉というのは、人間だけじゃなくて、けものや鳥や虫のこともふくめて言っているのかも知れませんか。しかし鳥やけものや虫には〈美しいものの代表〉というのは関係ない。ただ、〈花〉は関係があります。チョウは花を求めて飛んで行きますね、蜜を吸い。だから、チョウにとっての花というのは、美しいから飛んで行くのではなくて、蜜があるという印だからです。そういう意味ではチョウにも、花はねうちがあります。

ねうちというのは人によって、あるとかないとか、ちがうのです。

まず、ここでは人間の〈ぼくら〉にとって〈目のさめる みどりの葉っぱ〉というのは、気持ちもいい、美しいという、美しさというねうちもあるが、何よりも生きていくために酸素が必要だ。それから二酸化炭素がどんどんふえて空気中にたまると困る。それをちゃんとみどりの葉っぱが吸ってくれる。

それから、花がさくと美しいなあ。もちろん、その花は、実をならすためのことですから、その実を食べるとおいしくて栄養になる。

つまり、これはぜんぶ、ねうちのことです。人間にとってねうちのある草木が、ぼくらの回りにあることが、よかったなあということです。

ところで、そういうねうちのある草木を育てているのは何ですか。

佳也 雨、風、太陽、人間。

T ほう、人間ね。

それから、もう一つ、書いてないけど。

佳也 土。

T おお、そうだ、土だ。この土を作ったのは誰？

佳也 生き物。

T うん、生き物。草木もね。そうすると、ぜんぶだね。

一時間の中で一人か二人に

T 君は、佳也君ね。今日はおおいに活躍したね。(笑)先生は、一時間の中で一人か二人になるべく言わせるようにします。次の時間には別の人にたっぷり言わせる。そういうやり方です。残念ながら、今日で終わりだけど。また次に機会があれば、みんな喜んで出て来てちょうだいね。そしたら、こんどはちがう人にたっぷり言わせてあげるからね。

先生は今日、みんなと授業しながら、気づいたことがやっぱりいくつかありますね。みんなが先生から教わっただけじゃなくて、授業している先生も、みんなとやりとりしてい

て「そうか、ここはこうなんだ」とわかったことがあります。

「天地人」ということばをおぼえておいてね。これは、ぜんぶびびきあっている。その天地人というのを、もう少し細かく言うと、雨や風や太陽ということになるし、葉や花や実ということになるし、鳥やけものや虫や人ということになるし、ちょっとここに魚が出て来ていないけれども、魚も入れていいですよ。

終わりにしましょうかね。

インドラの網

T どう？今日の授業のご感想は。何が一番頭に残った？

龍弥 雨とか風とか太陽とか草木とか鳥やけものとか人間とか、ぜんぶつながっている。

T そうですね。ぜんぶつながっている。(板書をさしながら)先生はわざわざ赤い線でつなげたのよ。こんなふうにつながっている。つながっているというのは、こっちらこっちらへも、逆にこっちらからこっちらへもつながっているということですよ。こんなふう

に世の中のすべては、あみの目のようにつながっている。

昔の人は、こういうふうになんか目に見えない糸でつながっているということを「インドラの網」ということばでたとえました。(網)ということばは漢字で書くよ。(板書)おぼえておいてね。この世界のありとあらゆるものは、ぜんぶつながって、そしてひびきあって、そしてもちつもたれつで、そして、こっちが変わればあっちも変わるといふ関係で、すべてのものが生き生きと動いている、きらめいている、光を放っている、ということですよ。それを「インドラの網」とたとえました。

むかしむかし、インドにインドラという名前の神様がいて、その神様の宮殿は、すばらしい宝石を無数にちりばめた網でおおわれていて、このうえなく美しくかがやいていた。

天地人のすべてのものが、その「インドラの網」の宝石の一粒一粒であるというわけです。

この黒板の図は「インドラの網」を図にかいたようなものです。

では、これで終わります。

つながりを作る、変える

司会(片岡) 西郷先生、みなさん、ありがとうございます。

それでは、今日せっかく授業に参加したのに、あまり発言のチャンスがなかったみなさんに感想を聞いてみたいと思います。何が一番印象に残りましたか。どうぞ。

圭絵

インドラの網のように、すべてがつながりあっているということです。

T

あのね、何かを見るときに、何がどういふふうにつながっているかな、と考える

といいよ。友達でもいいし、その辺を歩いている犬でもいいし、車でもいいし、何でもいいから。じかにつながっているばあいと、まずこっちの何かとつながってから向こうとつながっているというばあいもあるからね。これから時々、これとあれとはどんなつながりがあるかなあ、と考えてみるといいよ。そうすると目に見えない糸が見えてくる。直接には見えないけど、頭で考えると、ね。

敬彦 一つ一つがみんなつながっていることがわかりました。

素晴 すべてのことがつながっているということがわかりました。

T 本当にわかった？じゃあ、君の目の前の紙とはどんなつながりがあるの？

素晴 この紙に書いてある詩を見て授業を受けて、家に持って帰る。

T 家に持って帰って、お母さんと話し合う？

素晴 うん。

T つながりは、ただ「ある」というのではなくて、人間は、つながりを「作る」ということがある。人間はつながりを作ることができるのです。今日、持って帰ったらただ置いておいたらダメよ。お母さんと話し合いをして、お母さんを賢くしてあげる。それは、自分の方からつながりを作ることになるわけです。つながりは「ある」だけじゃない。人間が、つながりを「作り変える」。

純子 人も生き物もぜんぶつながっていることがわかりました。

T これからは、とにかく何でもいいから「どんなつながりがあるかな」「どんなつながりを作ろうかな」「どんなふうにつながりを変えようかな」と、いろいろ考えてみてください。

終わり

【板書】

もの見方・考え方
 ひびきあい
 もちつもたれつ
 つれあってかわる
 あみの目のようにつながりあって

よかつたなあ

① よかつたなあ 草や木が

ほくらの まわりに いてくれ
 目のさめる みどりの葉
 美しいものの代表
 かぐわしい実

ほくらのまわりは
 数がおりになく
 めりめりくらあつて
 どんなところにも
 いつも
 ゆたかな
 自然林
 人工林

② よかつたなあ 草や木が

何おぐ 何ちよう
 もつと数がきりなく いてくれて
 どの ひとつひとつも
 みんな めいめいに違つていてくれ

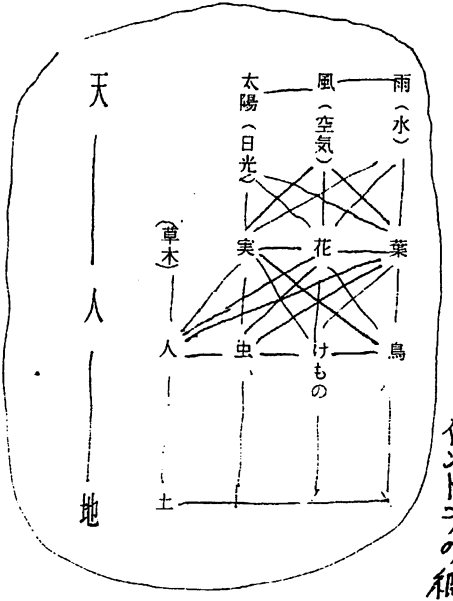
③ よかつたなあ 草や木が

どんなところにも いてくれ
 鳥や けものや 虫や 人
 何が訪ねるのをぞも
 そこに動かないで 待っていてくれ

目のさめる みどりの葉
 美しいものの代表 花
 かぐわしい実
 有うち
 (酒道)

④ ああ よかつたなあ 草や木がいつも

雨に洗われ
 風にみがかれ
 太陽にかがやいて きらきらと



インドラの網

(休憩後)

子どもの感想

司会(石田) 先ほどの授業の後、別室の方で子どもたちに感想を書いてもらったので、紹介したいと思います。小さい学年の方からいきます。

小四 松下倫子

今日「よかったなあ」という詩を勉強して、生き物や、鳥や、雨などせんぶがつながっているということが初めてわかりました。草や木、動物などはせんぶ雨がなにかかれて、死んでしまうということを勉強してよかったです。

小六 太田千尋

先生の授業は、前にも書いたような気がするけど、学校では習わないようなことをするのでおもしろいです。今日の授業も雨、風、太陽、葉、花、実、鳥、けもの、虫、人が全部つながっているということがわかりました。でもこれはたとえだから、ほかにもつながっているのがいっぱいあると思います。天地人は知っていたけど、インドラの網というのは知りませんでした。学校の授業ではこういうのは出ないと思うけど、私にとって、いい勉強になったと思います。

小六 太田龍弥

ぼくは、今日の授業で「つながり」ということを勉強しました。「つながり」というのは、すべての植物や動物がつながっているということです。たとえば、花、葉、水、空気、光、土など、どれ一つでもぬけたらさかないし、花がさかなかったら、実もできないから、絶対にどれもぬけてはならないものというふうにつながっていることがわかりました。(すべてのものが、ぬけてはならないこと)

最後に、三回の授業をうけて、学校の授業とはぜんぜんちがっていたが、わかりやすかったです。

小六 平尾圭絵

インドラの網のようにせんぶつながっていることが分かった。だから、ひとつでもなくなったら、つながらなくなり、もしかしたら人間も生きられなくなるかもしれない。ある物は遠回りにつながっていて、ある物はすぐにつながっている物もあることがわかった。

小六 松下純子

人も生き物も全部つながっているということが今日の授業でわかりました。つながっていないものは、人がつなげるということもわかりました。私は今日が三回目なので、一回目よりはだいぶわかりました。

小六 川部浩嗣

はじめの方はよくわからなかったけど、後の方はとてもおもしろかった。いろいろなつながりがおもしろかった。

小六 岡崎 直

今日勉強した「よかったなあ」で雨、風、太陽、草、花、実、鳥、けもの、虫、人のつながりがよくわかった。詩からいろいろな勉強ができるって知ってよかったなあ。詩は、さぐればさぐるほどおもしろくなっていくような気がした。「よかったなあ」にもまだまだ秘密がありそう。人は酸素を吸い、二酸化炭素をはく。それぐらい常識のようだったが、この詩を読んで、本当に常識のことだったのでよかったです。自然のつくりがよくわかり、すごいな、「自然は本当にすごいものだ」と心から感じた。自然があってよかったなあ。

中一 児島素晴

今日授業をうけて、一つ一つが網の目のようにつながっているということがよくわかった。いろいろな見方をすれば、いろいろなことがわかるんだなあと考えた。この授業をうけてよかったと思います。

中一 中島佳也

今日勉強した「よかったなあ」では、西郷先生にたくさんあてられて、おもしろかった。人はすべてのものと何かつながりがあるなんて考えたこともなくて、インドラの網という言葉もおぼえられてとても楽しかった。今回で最後だったけどいろんなことがおぼえられました。ありがとうございます。

中一 鈴木亜衣

今まで、草や木がいてあたりまえと思っていたけど、「いてくれてよかった」と言っているのびっくりした。

自然のつながりをあらためて考えることができてよかった。「待っていてくれて」というところで、「だれを待っていていてくれるのかな？」と思った。

鳥やけものや虫や人がいろいろとつながっているのは、なんとなく美しいなあ！
一つでも欠けたらだめなんだろうなあ。

中二 柴原敬彦

みんなつながっていることがわかった。人も物も動物もつながっていた。これからは、それがどうつながっているかを、考えようと思いました。

中二 片岡俊介

今日の授業で初めて意見を言うことができたけど、発表は結構簡単だったので別にあせらなくてすんだけど、終わってから、もっとあててもらってもよかったかなと思いました。言うことは何も別にむずかしくなかったと思うけど、授業はかなり難しく、レベルが高いんだなーと思いました。いろいろ勉強ができてよかったです。

中二 鶴海 希

ぼくは、今日で二回目の参加です。今日は「よかったなあ」という詩で、いろいろなつながりがわかりました。それをまとめてインドラの網というのは知りませんでした。また参加したいけど、もうこれで終わりなので残念です。

中三 獅々堀 優

もの見方・考え方はだいたいわかったが、それがどのようにして考えながら、理解をしていくのかがわからない。初めはどのようなところへ目をつければいいのか。教えてください。

母親の感想

司会 以上のように、学年を追うごとに、感想が高まっているように思いました。

それから、今回は、子どもさん方の席に入って授業を受けられたお母様方もおられます。その方々にも感想を書いていただきました。ご紹介します。

T S

参加は二回目ですが、一回目より二回目とやはり落ち着いて授業に参加させていただきました。すべての世の中の物、草や木がながっていることを、西郷先生のお話から、詩をきっかけに改めて、考えさせていただきました。あてられるのではないかと子ども以上にハラハラドキドキの授業でしたが、小さな子どもたちから「どうして？」と質問攻め

にあっていた頃を思い出し、また忘れかけていた視点の換え方に気をつけてみようと思います。ありがとうございます。

O Y

「よかったなあ」の詩の授業を受けて、本当によかったなあと思いました。子どもたちが、この詩の本当の中身を見つけて分かってくれたら、自分というものがこの世の中で、一人ではないんだと感じられると思ったからです。私が、子どもの頃にこのような詩の授業を受けていたら、ドキドキしただろうけど、「詩」というものが大好きになっていただろうなあと思えました。葉や花や実、鳥やけものや虫や人、雨や風や太陽の繋がっている様子の導き方がよかったです。二連目の掘り下げがどうなるのか気になりました。緊張感がなくなったらもっと面白くなっただろうなあと感じました。低学年が相手だともっと楽しかったかも……。

O A

今回、初めて参加させて頂きましたが、一つの詩にこれだけ時間をかけて考えてみたことはなかったように思います。今日の「よかったなあ」の詩で、まどみちおさんの、感情を表現する中で、読者とのつながりやものの見方・考え方を教えられ、大変共感させられました。

T M

「よかったなあ」という詩を勉強してすごく意味の深いものだなあと思いました。先生の話の中で、つながりということをとても強く感じました。これからはもっとつながりということを大事にしていこうと思いました。

参観者の感想

司会

以上のような感想をいただいております。今、大人も子どもも、なかなか他人とつながりを持ちにくくて、つながろうとしているのだけでもうまくいかずに、日々子どもたちを見ていたら、たくさんトラブルがあったり、子育てに悩みながら、横の関係がうすいために一人で悩んでいるお母さん方がおられたり、また教師の集団も、そうであってはいけないけど、なかなかつながりを持てずに一人で悩みをかかえていることもあるように思えるんですが、感想の中には、自分からつながりを持っていけばいいんじゃないかというような子どもの発言もあって、とても学ばされたところが多かったように思います。さて、今日の授業はへつなげてみる」というような、相関的な見方が中心の授業だった

と思うんですが、参観されたみなさんから、ご意見、ご感想などをいただけたら、と思います。

では、どなたからでも。子どもたちも最初に口火を切るのは大変なんです、ご発言をお願いします。

石井 授業に遅れて申し訳ありませんでした。途中でスピード違反でつかまってしまって、関係が別なところでできてしまいました。(笑) (つれあってかわる)ということですが、算数だったら関数かなあと思ったり、夫婦関係もそうかなあ(笑)と思ったり……

西郷 つれあって悪く変わるばあいもある。(笑)

石井 家のばあいは悪く変わっている例で(笑)、(つれあってかわる)というのは両方がいろんな作用をし合って変わるといので、すぐおもしろいなあと思って、詩を読む以上に、そういう世界の広さというものをあらためて知らされたというか、何か自分の気持ち洗われたというか、いろいろな見方をしないと、目の前の子どもを、人間というものを見て行けないな、と感じました。

司会 ありがとうございます。ここに集まっているのも何かのつながりです。

西郷 そういうのを「縁」と言うの。(笑)何かの縁。

司会 はい。では、福山から来られた方。遠くから縁を求めて来られましたので。

高橋 やはり、つながりがあるということを、詩を使って授業すると、子どもたちは実感しながら学んでいくんだなということ、子どもたちの感想を聞いて思いました。感想の中に、つながりがあるだけではなく、つながりを作るとか変えようとか、ああいうところも意味づけられていたので、これからも発展性があるな、と思って聞かせてもらいました。

それから、子どもたちの方から、つながりあってよかったなあ、そういう世界は楽しい、ということを実感しながら学んでいるんだなあと思いました。ただ見たら、シーンとした授業に見えるけれど、やはり一人一人、心を動かしながら授業を受けていたんだなあと思いました。

司会 ありがとうございます。毎回、子どもたちに感想を書いてもらうんですが、すぐにはお知らせできないので、通信というかたちでお知らせしていました。今回は最後なので、すぐに書いてもらったものを、こうやって聞いていただくことができました。そのへんの子どもたちの反応についてもよろしいのでお話しください。

西郷 僕はね、今日の授業では一言も言わなかったんだけど、二人ぐらいの子どもが「こんなに全部がつながっている、だから一つ欠けてもいけないんだ」ということを言うてくれたから、「おお！」と、とてもびっくりしたね。こんどは自分で考え方を発見した

のね。あんなに密接にかかわりあっているのだから、一つ欠けると、そこからずうっと崩れていくと。

いま地球上で、一日に一種類の生物が消えていくと、よく言われるでしょう。そのへんの虫とか、そのへんの草木が一つなくなっただけからって、別にどうってことないんじゃないかと、どうしてもどこかで思っていますよね。

ところが科学者のレポートによると、それ自体がなくなったことだけでは、たいしたことないというんです。それがなくなると、それにつながっていたものがダメになる。そして、それにつながっていたものがまたダメになる。さらに、それにつながっていたものがまたダメになる。というふうに連鎖反応がずうっと続いて、ある時間がたてば、大きな欠損が生まれてくるのだというんです。

そこところが、どうも世の中の人々がみな分かっていないものだから、なんで、虫や鳥の一種類がなくなること、を、「絶滅」とか言ってあんなにワーワー騒ぐんだろうと思う。たとえば日本のことと言えばトキ。トキという鳥が日本にはもういなくなっただけで、わざわざ中国から持って来ているいろいろやっているでしょう。あんなことでワーワー騒ぐことないじゃないかと思うでしょう？それはやはり認識不足なんですね。

つまり将棋倒しになっていくんですよ。将棋倒しというのは、まず一個が倒れるんだけど、その一個が次の一個を倒して、次々に倒れる。

ドミノという遊びがありますね。あれと同じです。ドミノというのは、最初はただ一つ倒すだけでしょう。でも、会場全体の何万個というものがぜんぶ崩れて行くじゃないですか、ぜんぶつながっているから。

あのドミノ遊びなんか、そういうふうに見えるといいんですよ。(笑)ホラ見ろ、と。一つを指でつついて倒しただけで、あれだけのものがぜんぶ倒れるでしょう、つながっているから、と。

司会 後ろで首をかしげている児島先生。

児島 私は、この前は来れなくて、子どもに「わが家の代表で、お母さんの代わりに行って来てちょうだい」と言ったら、「そんなら行って来る」と言って、美作のお姉さん方に連れて来ていただいたんです。帰って来たときに、すごくまじめな顔をしていて、「今日は、何を勉強して来てくれたん？教えて」と言ったら、「〈終わりが始まり〉ということ習って来た」というようなことを教えてくれて、それが、けっこうわかりやすく教えてくれたから、「ああ、この子なりに勉強してもらっているんだなあ」と安堵しました。

それから、今日も傍にいと、発言もしないんだけど、さっき「実感」ということを福山の方もおっしゃっていましたけど、自分なりに考えた感じたりしているようで、

やっぱり、まあ、私はいらつく時もあった（笑）んですが、一番最後のところでは、福山の先生も言われたように、紙と自分とのかかわりということで、西郷先生が、自分が関係を作っていくのだと言ってくださったのが、本当に西郷先生のすべてが授業というか、西郷先生が何をおっしゃっても、宗教みたいになってきますけど（笑）一言一言がありがたい（爆笑）というか――

西郷 教祖様みたいだな。

児島 私は教師ですから、教師として子どもの前に立ったときに、その場その場で拾い上げて的確に指導ができていくかと考えたら、本当にあの時に目から鱗が落ちて「ああ、そうか！」と思いました。私は、さっき学んだけど、次に応用する力は何もついていなかったんだ、と思いました。つながりあって、ということはわかってはいたけど、さっきの中三の子の書いていたことと同じだな、と思いました。そのことを、あの子はわかっていますけど、私はそのことすらわかってないということで、本当にここへ来たらずべてが勉強だと、あらためて思いました。

子どもにとってすごくいいチャンスを与えていただいたし、本当に感謝でいっぱいです。こういう授業をたくさんの人に受けていただきたくて、いろいろ声をかけたんですけど、結局やめられた方もあって、もったいないなあという思いでいっぱいです。

私は、長男が高三、いわゆる「十七才」ですけど、その子が小学校に上がる頃に「生活科」のことを知って、こりゃ大変だ、科学的な認識の力や社会的な認識の力はどこで身につけるんだろう、と思いました。

次男は高一ですが、その子のときから生活科が入って来て、子どもに「今日は何をしたの？」とたずねたら、「河原へ行って、石をひろって、名前をかいいたり、顔をかいいたりしてきたよ」と言うので、すごく腹が立って、「そんなこと家では二才か三才のときにします！」（笑）と、子どもに怒ってもしょろがないんですが、「そんな勉強をしに学校へ行っているんじゃないんです！」と言ったけど、私にはどうしていいかわからなくて……。

でも、その子のときは、まだ過渡期だったから、先生方は力を入れてくれたと思うんですけども、この三男の中一の子については、親も年がたって、きめ細かいしつけもできませんでしたし、生活科、生活科で来たんじゃないかと思うんです、よくは分かりませんが。たとえば宇宙のことも小学校の低学年のときには一言も口にすることはありませんでした。三年生になって初めて宇宙の「う」の字が出て、この子は本当にそういう考え方が身につけていないんだ、と思いながらも、ほったらかしで今日の今日まで来ていて、今回、本当にいいチャンスをいただいていたかかったと心から感謝しています。

司会 ありがとうございます。それでは、児島先生のほかに、子どもさんが授業に参加されていて、親であり、教師であるという両方の立場から子どもさんを見守ってお

られた方がありますので、続けて聞いてみたいと思います。平尾先生いかがでしょうか。

平尾 子どもも私みたいへん意義のある授業を受けさせていただきました。一回目の授業の後の宿題のときに「なんで、西郷先生はこういう考え方ができるんだろう」と、さかんに言っていました。今まで考えてもみなかったことが授業の中であって、「そういうものの見方・考え方をすればいろんなことが分かるのに、どうして学校で教えないのかな」とも言っていました。二回目の「終わりが始まりになる」ということも、自分では考えでもみなかったことで、そしてそれは、一回だけじゃなくて、今までもずっとずっと続いてきたことだとわかって、「なんだか世界が広がった気がする」と言っていました。

そういう考え方を私は今まで子どもに与えることができなかったもので、西郷先生に授業をしていただくことができて、子どもも、私も本当によかったと思います。

司会 ありがとうございます。では、松下先生。

松下 今日は、四年生の子まで参加させていただきまして、ありがとうございます。六年生の子のことですけど、最初は、私の方から半ば強引に「こんな機会は二度とないかもしれないからね」と言って連れて来たんですけど、「ようわからなかった、むつかしかった」と言っていました。

二回目ときは、ゴールデンウィークの中の土曜日で、娘の学校は休みだったんです。それで、「せっかく休みなのに、お昼から勉強にいかなきゃいけないの？」と言うのを、連れて来たんですけど、授業の後、けっこういい顔をして帰ったんです。「この前より、よくわかった。なんか今日はおもしろかった」と言っていました。そして、その後しばらくして「お母さん、三回目はいつかなあ」(笑)と言って楽しみにしている様子でした。それで今回は、「お母さん、何時に家を出るの？今度はどんな勉強かなあ。宿題ができてないから、早くしとかんといけんわあ」というふうに分言い出して参加しました。児島先生も言われましたけど、学校の中でも自分から発言できない子なのですが、聞きながら自分の中ではいろいろ考えていたようです。ようやくふんいきにもなれてきて、なんとなく、ちょっとおもしろいな、というようなところで終わりというのがとても残念(笑)なので、ぜひ、また機会を作っていただきたいと思います。

本当に子どもの表情がだんだん変わっていくのが傍で見ているとよくわかりました。よかったです。ありがとうございます。

西郷 ふだん受けているスタイルとまるきりちがいますからね。最初はとまどうんじやないでしょうかね。それから、知らない人ばかりで、友達どうしじゃないということもあると思います。二回、三回となると、なんとなく、ここでの授業になれてきたということがあると思います。

司会 ありがとうございます。予定の時間が来ましたので終わらせていただきます。